

信玄公の首がついたお不動さま

朱塗りの仁王門をくぐると、ほの暗い本堂の中に大きなお不動さま（像高一・三メートル）が辺りをにらんでいらつしやいます。

このお不動さまは、江戸時代の初め堀田正信公が佐倉のお殿様であった時（一六五〇〜一六六〇）、成田のお不動さまに多くの人がお詣りするので、こちらにも人を呼ぼうと江戸の仏師に造らせたものです。

その時この仏師は、甲斐の国からも武田信玄公の像を頼まれていました。いよいよ首をつける時になって、お不動さまの首を信玄公に、新原稿の首をお不動さまにつけて新原稿の髪の毛を植えてしまいました。

よくよく見ると本当に恐い顔をしていて普通のお不動さまとはよほど違っています。「成田の姉不動」と呼ばれたこのお不動さまは、あまり参詣人もなく、お殿さまのもくろみははずれたようです。『古今佐倉真佐子（ここんさくらまさご）』より）

当寺、このお不動さまは東台（東台）（今の中央三丁目あたり）にありました。元禄年間（一六八八から一七〇四）に佐倉のお殿さまであった戸田山城守忠昌の奥方さまが重い病にかかりました。あちらこちらから有名な医者をお呼び、あらゆる手をつくしましたがが少しも効き目がありません。

ん。

ある夜、夢に「酒々井の不動に祈願すれば治る」とのお告げがありました。東台にあったささやかな不動堂を探して、今の馬場の地に移し祈願したところ、三七日（さんしちにち）（二十一日）目にはすっかり元気になりました。

お殿さまは大いに喜んで立派な不動堂を建立されたという事です。『印旛郡誌』より）

※ 『酒々井町史』編さんのための資料調査の時、深山武夫さん宅で見つけられた文書によって、勝蔵院を寄進したのは、戸田山城守忠昌ではなく、子どもの能登守忠直であること、元禄十二年（一六九九）十一月に着工し、同十三年四月に完成したことが分かりました。